

## アイダホ:「米国ビジネスへの玄関口」 ケリー・アンソン:アイダホ州上院議員

日本との長年に渡る豊富なビジネス誘致経験を持っているアンソン上院議員（共和党院内総務）が、アイダホの現在の状況とアイダホでのビジネスの魅力について紹介して下さいました。項目番号は、議員のプレゼンスライドのページと一致させています。

1. 州人口:約 180 万人、面積:約 22 万km<sup>2</sup>、州都:ボイシー、州内総生産:約 9 千億円

2. 主要産業:

大規模な農業:もちろん全米一のジャガイモ生産量。日本は5番目の輸出先。

製造業:食品、プラスチック、マイクロチップ、ソフトウェア

アイダホでは近年は食品産業や大規模な製造業が発展しています。豊かな自然を活かした観光業も重要な産業で、日本からの観光客にも期待しています。

3. 日本への輸出:

輸出額は約 200 億円。電気及び工業製品、食品及び農業、木材、紙、パルプなどを輸出。

4. 日本からの輸入:

輸入額も約 200 億円。電気及び工業製品、肥料、農薬、化学品、家庭及びアウトドア製品、木材、紙、パルプ印刷などを輸入。

5. アイダホ州の主要企業:

ヒューレット・パッカード、マイクロン、Albertsons（小売）、Darigold（酪農）、Agri Beef Co（畜産）、Idaho Milk Products（乳製品）、Cliff Bar & Company（栄養バー、飲料）、Chobani（ヨーグルト乳製品加工）、McCain（冷凍食品、ジャガイモ冷凍加工）、Glanbia（スポーツ栄養、乳製品）、Melaleuca（健康食品）、Idaho National Laboratory（米国原子力研究）、Simplot（冷凍食品、ジャガイモ冷凍加工）、Fabri-Kal（パッケージング）、Scentsy（香料）など

6. なぜ今アイダホへの投資か:

経済成長率、人口一人当たり雇用増加率、仕事満足度（良好な生活環境）がなんと全米一です。旅行

先、移住先としての人気も上昇しており、ボイシー市は近年全米で最も人口増加率の高い都市になりました。

#### 7. 米国西部への玄関として：

物流の利便性、ビジネスフレンドリーな州政府の風土を背景に海外からの直接投資が増加中です。

8. 物流上の利点その1：アイダホは、低廉な不動産価格や西海岸への地理的優位性から、日本のビジネスにとって米国への玄関として魅力をもっており、州としても海外からの投資に一層力をいれているところですよ。

9. 物流上の利点その2：オレゴン州ポートランド市 890km（1日）、ワシントン州シアトル市 1,000km（1.5日）、カリフォルニア州サンフランシスコ市 1,080km（1.5日）など、州外の大規模消費地への距離がいずれも近いことが特徴です。アイダホ中心部から13時間あれば、米国の主要都市へ移動が可能です。低コストの製造力、インフラ整備が進んだ交通環境で米国西部全域をカバーできる拠点をお望みであれば、アイダホは最適です。また、ジャガイモ輸送の歴史のおかげで、東海岸への鉄道輸送ルートも魅力です。

#### 10. ビジネスの利点：

アイダホ州は比較的小規模な都市が多い分、政府機関との連絡が非常に緊密に取れるメリットがあります。ビジネス活動の円滑化をモットーに、アイダホ州における各種規制は全米屈指の柔軟さを持ち、全米でトップレベルの優位な税制や補助金制度が設けられています。

“チャンス基金”や“貿易拡大プログラム”などはその例です。

かつてのアイダホ知事が“政府はビジネス加速の為に機能すべきであり、ビジネス成長の妨げとなるべきではない”と述べたように、政策の予測可能性が高く、各種規制が緩やかであることはビジネスの加速化に重要な要素です。これが現在のアイダホのビジネス風土です。州内各地は成長の機会を狙っており、例えば農業は、維持するだけでなく農業経済を多様化する必要性があります。地方部でも手厚い優遇措置下に多様なビジネスの機運が高まっており、経済成長を今までとは異なる次

のレベルに上げる準備が整っています。アイダホに投資し自ら成長され、かつ当地の雇用を生み出す外国企業の皆様に対しては、本当に多くの補助金、税制をご用意しており、ビジネスに適した都市形成も進行中です。

### 1 1. アイダホ州進出の好機をサポートする各種プログラム：

**米国商務省による注目の“セレクト USA”プログラムは、国外企業と米国の経済開発機関を結び、事業投資と雇用創出の促進を図ります。**

特にこの5年間は、アイダホ商務省内で対日経済開発の機運が高まっており、セレクト USA プログラムなどを通じ様々な日本企業との関わりが生まれました。在ポートランド領事事務所、在ボイシー日本国名誉領事、さらにはワシントン DC の米国大使館による強力なサポートもあります。

一つの例として、東京八王子のハツグループは、日本の中小企業を集め米国でのビジネス拡張展開を行い大きな成功を収めています。ハツグループの創業者リーダーでサカイキャスティング社の鈴木氏は、当初はカリフォルニア州に進出しましたが、同州の複雑な手続きやビジネス環境に比べると、比較的小規模経営であった同社にとってはアイダホ州が魅力的に映るようになりました。「Idaho Global Entrepreneurial Mission (IGEM)」というプログラムでは、アイダホの産学と国外企業が共同で行う新技術開発を支援しています。

### 1 2. サカエ社の成功例：アルミ鋳造・V プロセス鋳造

サカエキャスティング社にはこの IGEM プログラムをご利用いただきました。アイダホ州政府も参加の下、アイダホ国立原子力研究所の原子力廃棄物対応について安全で革新的な技術で商業化に成功しました。2017年に同社はアイダホフォールズに移転し、私達のパートナーとなりました。アイダホ大学、ボイジー州立大学は同社と27万ドルの補助金を活用して技術開発中です。これらのような成功の機会がさらに広がる事を期待しています。繰り返しますが、アイダホが日本の皆様の米国の玄関口となり、ここから全米にビジネスを展開していただくことが可能であると確信しています。

### 1 3. 上院議員 ケリー・アンソン

**事務所 : 1-208-332-1327 1-208-436-9600**

**Email: [KAnthon@senate.Idaho.gov](mailto:KAnthon@senate.Idaho.gov)**

もし、アイダホ進出にご興味があれば、在ポートランド領事事務所又は私にご連絡下さい。皆様のパートナーとなれる事を願っています。アイダホのビジネス好機と皆さまの玄関になる可能性をご紹介させて頂きありがとうございました。